

地名：オオホナイ／o-oho-nai／深川

深い・川

深川市史に色々な説が書かれております。

その一つとして、深川市街の北側を東西に流れる^{おおほうがわ}大鳳川は、アイヌ語で「深い・川」の意味を持つオオホ・ナイが語源で、これを和訳したという説があります。

なお、深川の地名が最初にでてきたのは、明治 25 年 2 月 4 日の北海道庁告示で、そこに深川村という表示がされました。



【大鳳川】

地名：MEM／mem

水が湧き出る沼に魚が多くいるところ

アイヌ語で、「水が湧き出る沼に魚が多くいるところ」という意味があります。

泉の湧く沼が現在のMEM 4、5号線の草原にあったようで、その沼から流れている川が妹背牛町内を通り、雨龍川に通じていました。

アイヌの人たちは、川筋の土地の名はその川の名で呼ぶことがあります。

MEM川の一帯をアイヌの人たちは、MEMと呼んだ場所が所々あるところからMEMと言われたようです。



【一巳地区よりMEM地区を望む】